

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ	わくわく銚子へ	鈴木 治男	「スクエアダンスとの出会い」	宍倉 昭夫
3 ページ	真夏の挑戦	亀野陽太郎	つゆの花 あじさい	清澤 瞳子

## 読 書 雑 感

### 服 部 一 宏

本を読むことはおろか、ちよつと長い文章を読むことさえ苦手とする風潮が強くなつてきて久しく、それに抵抗を感じ、人間としてもつたいない思いがします。

小説を読むことで、自分が経験できない人生を経験することができ、また、自分が過去に直面し、煩悶した経験を再体験したりして、自分の人生をそれだけ豊かにすることができま

す。アンデルセンの『絵のない絵本』では自然なままの人間の心の多様性を知り、アミールチスの『クオレ物語』では、人間社会の中にあつて、人に対してどのような心配りをすべきかを子供たちの学校生活を通して教えています。ともに、人間を知り社会を知ることの昔からのベストセラーと言えます。

二千年も以前に書かれた口

マの詩人ルクレティウスの『ものの本質について』を読んで、人間が徹底的に観察し、分析して、構築した理屈が、現代になってボーア等によつて確立された原子論と驚くほど類似していることは人間の想像力の素晴らしさの証です。

本の内容に関して、ここに羅列した理由は、本はあらゆる人生のテーマを物語つてくれる玉手箱であり、本によつて、人間とはどんなものか、それをより広く、より深く知ることが出来るという認識を、再確認するためです。

そして人間とは、お互いが心情を持った偉大な生物種であり、人間の絆で結ばれた仲間として自分も一緒に今生きているのだということ、言い換えると、人間は孤独ではありえないという認識が自然に湧いてくると思います。

本を読んで思考するということは、こういった認識に至る近道だと思ひます。

人を殺したくなつたから殺しただけで、だれであつても構わなかつたといった、人間性を失つた無感動な、動機なき殺人事件が増えてきているのは、時流に流され、本をじっくりと読まず、思考を放棄して孤独な心理状態に落ち込んでいる人達の総和が生み出している社会現象の一つのようないふがしてなりません。

人を「人間」と表現する由来は知りませんが、文字が示しているように、人間とは、人と人との間にあるもの、即ち、自分を含めたお互いのことを考えたり、考えを伝えあつたりして生きていく感情を持った社会的生物であると考へ、どんな時でも一人きりではないのだということに気が付いてくれば、こんな荒んだ事件は起こらなくなるのだと思ひます。

(編集委員)

## わくわく銚子へ

佐倉市民カレッジで、共に学び行動する仲間と銚子への旅をした。

まず初めに社会科勉強として歴史あるヤマサ醤油工場を見学する。洗練された受付嬢と関係者に笑顔で迎えられる。銚子は、暖流（黒潮）と寒流（親潮）が沖でぶつかり合う位地で海洋性気候のため気温、湿度、水質など醤油づくりに適した土地と、江戸時代に利根川水運が開発され物流にも恵まれていたとの説明を受け、銚子が醤油工場に適しているのも納得する。

仲ノ町駅より銚子電鉄に乗る。弧廻手形一日乗車券（銚子 外川）購入。よく見ると人気のぬれ煎餅一枚サーピス券（犬吠埼駅にて）が付いているお得な乗車券である。

のどかな車窓の風景を楽しみながら十二分ほどの乗車で犬吠埼駅、さっそくぬれ煎餅

をいただく。煎餅をかんだ時の歯応え、醤油の味、風味等いつ食べても美味しい。

昼食は銚子ならではの鮮度抜群のサシミ舟盛り、またある者はキンメダイを食し、その味を堪能したようだ。

おなかを満たしたら犬吠埼灯台に向けのんびりとしたまち歩き、高浜虚子句碑、佐藤春夫詩碑など文学碑めぐり。

少し道を上がっていくと急に視界が開け目の前に太平洋が広がり、白亜の灯台を正面から見る事ができる。この景観が素晴らしい。犬吠埼に太平洋の怒涛がおしよせては岩に砕けるさまは豪快である。

帰り、観音駅で下車し坂東三十三番中二十七番札所の飯沼観音参拝、境内には、日本における河川測量の原点である「飯沼標準原標石」がある。楽しかった旅も終わり良き仲間と佐倉に向かう。

（上座 鈴木治男）

## スクエアダンスとの出会い

スクエアダンス（以下SDと称す）をご存知ですか？おそらく馴染みがないと思いますので、一言でいうと「音楽に乗って、四カッブルが一組になり、コール（掛け声）に従い歩いて踊るフォークダンスの一種」です。

私がこのSDと出会ったキッカケは、仕事をリタイアし、趣味として何か続けられるものはないかと探していた時に、ちょうど妻がSDに興味を持ち、例会見学と一緒に連れて行かれたことでした。そして熟年男女が楽しく踊っているのを見て、「これならできるかも」と仲間に入れてもらった次第です。ということ達夫婦は六〇ウン歳の手習い？で始めて丸二年、まだまだ勉強中の身ですが、SDの良さをPRしたいと思います。

歩ければ年齢、性別、体

型、大きさ等に関係なく、基本形をマスターしていれば初対面のメンバー同士でもすぐに踊ることができる。歩くだけといっても、例会では五、六千歩程度歩くので結構よい有酸素運動になり、ダイエット効果も期待できる。

さらに、自分勝手に歩くのではなく、コーラーの指示を聞き、それを理解しながら踊るので頭の体操、ボケ防止にも役立つ。

手を取り合いながら踊ることでスキンシップが図れ、お互いを知り合い、付き合いの輪を広げることができる。

SDは見せるものではなく、楽しむダンスです。「ダンスなんて柄じゃないヨ」とかいふ人がいますが、そんな人に向いているダンスかもしれない。私達も夫婦共通の趣味としてこれからも続けて行きたいと思います。あなたも始めてみませんか！

（本町 宍倉昭夫）

## 真夏の挑戦

標高三七七六<sup>㊦</sup>。言わずと知れた日本最高峰の山、「富士山」。最近健康ブーム・登山ブームもあいまって、多くの登山者が訪れているというニュースを耳にする。その富士山に走って登る「富士登山競走」というランニングのレースがある。

スタート地点は、標高約八〇〇<sup>㊦</sup>の富士吉田市役所前、ゴールは頂上。高低差三〇〇<sup>㊦</sup>。全長二一<sup>キロ</sup>のコースを四時間三〇分以内に登り切るレース。当然だがすべて登り坂。足場も悪い。標高が高くなるにつれて、道は険しく、酸素は薄くなるので呼吸がとても苦しい。参加者の内、制限時間内に頂上にたどり着けるのは約五〇<sup>㊦</sup>ということからも、レースの過酷さがわかる。

この過酷なレースに、三年連続で挑戦をする。なぜ三度

も続けて挑戦するのかというと、答えは簡単。一度も成功していないから…。今年こそ何とか成功したい。「二度あることはなんとやら」ではなく、「三度目の正直」となるように。

この挑戦を通じ、当然、完走を目標にトレーニングを積んでいるのだが、生活の中に仕事以外の明確な目標があることよって、自分自身の中に大きな緊張感が生まれることに気付かされた。

梅雨の時期、ジメジメとした蒸し暑い天候が続き、決してランニングには適していないこの時期であるが「富士山」という明確な目標があることよって日々の過ごし方に、緊張感が生まれる。その心地良い緊張感が、夏を乗り切る大きなエネルギーとなっている。

(白銀 亀野陽太郎)

## つゆの花あじさい

六月は、梅雨の花、紫陽花(アジサイ)の美しい季。白、青、紫、桃の澄んだ色、楚楚とした風情は、梅雨の季節がよく似合う。「あまつりぐさ」の略語で、アジサイと言われている。

山野に自生の、ガクアジサイを母に、日本産。西洋アジサイは、日本産が外国に渡り、欧米で品種改良され「ハイドランジア」として輸入。鉢物として親しまれている。

アジサイの花は、その年、伸長した枝先に、大きな球形の花を咲かせ、花径は一五〜二五<sup>㊦</sup>、これに小形の花が散房花序に配列。各花は小形の胡蝶花。一見花弁のような三〜四枚の美しい萼と、小さな花弁からなっている。一ヶ月位も咲き続け、緑、緑黄色、緑白色、白、碧、碧青色、桃色、茶褐色と七変化、花言葉の浮気はこの七変化からか。

花後も、花の形は枝に残り茶褐色のまま越年。花色は、土壌の酸度や肥料によっても多少の変化が見られる。

一八二三年、シーボルトは、あじさいの学名に、オタクサと命名している。

HYDRANGEA

MACROPHYLLA

VAR. OTAKSA

長崎に在留していた時の愛人、楠本滝の名にちなんだもの。現在、シーボルトの旧居に、アジサイが植えられ、このことを書いた石碑が建っているとのこと。この学名がアジサイを、いっそう優婉なものにしている。

白井から、船戸大橋を過ぎ信号を右折すると、印旛村の「あじさい通り」へと続く。道の両側に咲くアジサイ。約四<sup>㊦</sup>は続いているだろうが、三千本はある。その空間に選挙の顔写真も。歴博の菖蒲田の山側にも見事に咲いている。

(井野 清澤瞳子)

## 9月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### さくら道

私が低学年の頃だったと思う。夏休みに女の子四人、五人と近所にある小高い山で遊んでいたら、男の人が来て鬼灯を<sup>ほらぼら</sup>取ってやると誘った。終戦後間もない頃で遊ぶ物も少なく、よく鬼灯をブーブー鳴らして遊んでいたもので、すぐその気になった。男は私と一つ年下の子を選び、その子を背負い、道のないガサ藪の中にどんどん入って行く。その様子に私

は子ども心にもおかしいと思

い、転げる様に山を下りた。

母は私の話しを聞かずに、その子の母親と探しに行った。結果、背負われて行った子は、ガサ藪を登りきった木の根元に置かれていたそうだった。探すのが少しでも遅かったら…。母達の勘と行動は、母性本能としかいえないものだった。

この事が潜在しているのか、私は今、夫と共に小学生の登下校を見守っている。子ども達に元気を貰いながら…。

（栗田勢子）

### あとがき

鈴木様、気のおけない友達との小さな旅、いいですね。華やいた会話まで聞こえてきそうです。宍倉様、スクエアダンスの楽しさが伝わってきます。指示を聞き分け、軽やかにステップ。初対面の人もたちまち仲間入り。すばらしいですね。

亀野様、この夏、「三度目の正直」はなつたのでしょうか。富士登山だけでもハードなのに、

「競走」ですか。夢実現を目指し、日頃から鍛錬を続けておいでなのでしょうが、その苛酷さはいかばかりでしょう。清澤様もアジサイを育てておいでですか。梅雨空の下に咲くアジサイは、ことさら風情がありますね。過日、房州の高山で見たタマアジサイは、まん丸いつぼみが弾け、淡紫色の花（萼片）がこぼれ咲いていました。日々の生活にスパイスを利かせ、人生をより豊かにすることの大切さを学びました。（松山洋子）